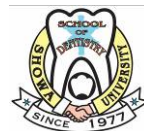




発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 昭和大学学祖祭開催される

歯学部長 宮崎 隆

本学は創設者である上條秀介博士の「国民の健康に親身になって尽せる臨床医家を養成する」という



願いのもとに、数々の苦難を乗り越えて、昭和3年に昭和医学専門学校として設立されました。その後医学部、薬学部、歯学部、保健医療学部を擁する医系総合大学として発展してきました。

今年度の事業計画として、学祖である上條秀介先生のご遺徳を称え偲ぶとともに、本学関係者が一同に会して親睦の絆をより深めるために学祖祭を開催することとなり、去る5月29日(日)午後1時から、上條講堂で大勢の出席を得て盛大に開催されました。

当日は、学祖祭に先立ち、法人役員と上條家関係者が都立多摩霊園の上條家墓をお参りし、小口理事長が学校法人の昭和22年度の事業報告ならびに23年度の事業計画を学祖に墓前報告しました。

学祖祭は久光総務担当理事の司会で始まり、片桐学長の挨拶、小口理事長の報告に引き続き、細山田名誉教授(前学長、現在法人特別顧問)が、上條秀介先生の生い立ちから専門学校創設そして戦後の昭和医科大学への変遷までの歴史について、膨大な資料をもとに当時の社会情勢を含めて記念講演をされました。上條秀介先生は明治26年に長野県東筑摩郡今井村に生まれ、幼少から神童の誉れが高く、松本中学校、第一高等学校を経て、大正4年に東京帝国大学医学部に入学されました。卒業後、助手、助手として附属病院内科に勤務するかたわら、大正14年に医学専門学校設立の必要性を提唱し、同志を募って準備を進め、幾多の困難を乗り越えて昭和3年に昭和医学専門学校を設立しました。その後学校は着実に発展するも、戦争に突入し、戦災を経て終戦。終戦後上條秀介先生は大英断をして、GHQによる学制改革の予科を伴った医科大学の道を選択し、昭和医科大学を設置し、学長および附属医院院長に就任しました。細山田先生の講演を拝聴し、聴衆者一同

上條先生の情熱に改めて感動するとともに、大学の今後の発展への新たな意欲がみなぎりました。校歌斉唱で閉式後、引き続き7号館で懇親会が開催され、思い出話に話が弾みました。

今後、毎年法人の事業報告と決算報告がまとまった時期に開催する予定です。

## 平成23年度父兄会総会開催される

歯学部長 宮崎 隆

平成23年度父兄会総会が、去る6月18日(土曜日)午後1時から本学上條講堂に於いて開催されました。本年度の新入生のご父母を含めて、会場は超満員の出席者でした。最初に小口理事長から昭和大学の現状と今後について、平成22年度の学校法人の事業報告と平成23年度の事業計画の概要が紹介されました。片桐学長(父兄会名誉会長)の挨拶に引き続き、四ノ宮父兄会長の議事進行により、平成22年度の決算、および平成23年度の事業計画と予算案が原案どおり承認されました。父兄会からは毎年、学生会の活動補助、指導担任制度の補助、学生の教材等の印刷補助など、大学の運営に多大な支援を頂戴しています。

同日は総会に先立ち、例年通り午前11時半からD6父母説明会、引き続き午後1時からD6学生説明会を開催しました。卒業判定や卒後の進路について、上條学生部長、佐藤教育委員長代理、古屋臨床研修医マッチング支援委員長、長谷川歯学教育研修センター長から説明がありました。

総会終了後、各学部に分かれて、歯学部会が4号館6階600号室で大勢の出席を得て開催されました。宮崎学部長、上條学生部長、および佐藤教育委員長代理から、歯学部の現状と学生生活についてお話がありました。最後は7号館に会場を移し、3時15分から4学部合同の懇親会が開催されました。こちらにも多数のご父母の参加があり、楽しい歓談をし、午後4時半過ぎに散会しました。



## 節電カリキュラムに変更になりました

教育委員長 井上 美津子

東日本大震災による節電対策として、昭和大学では本年7、8月の旗の台校舎での授業を取りやめ夏季休暇とすることになりました。歯学部でも2年生から4年生のカリキュラムを大幅に変更し、始業時間を早め終業時間を遅らせることで7月分の授業を5、6月に前倒しすることになりました。一部は夏休み前に実施が困難なものもありますが、大部分は時間と内容の調整で滞りなく実施されているようです。冷房も控えている現状の中で、講義や実習を行っている教員と学生の皆様に、ご協力をご感謝いたします。

## 学部連携地域医療実習が実施されました

口腔衛生学教室 向井 美恵

「将来、医療チームで地域医療に参加し、地域住民の健康回復・維持や在宅専門性に基づくチーム医療に必要な知識、技能、態度の基本を修得する」を一般目標とした、2週間の選択実習「学部連携地域医療実習」が5月9日～6月3日に大田区2施設、富士吉田1施設の計3グループで実施され歯学部の6年生も参加しました。

1年生の富士吉田で始まる医・歯・薬・保健医療の4学部の学部連携教育の最終に位置づけられている実習になります。在宅および施設療養中の脳血管障害後遺症、神経難病、認知症、癌などのため通院困難な基礎疾患を有する患者さんのお宅に訪問して地域医療を体験する実習形態をとりました。実習先は中核となる医院、歯科医院、訪問看護ステーション、訪問薬局です。近い将来、訪問歯科診療が進むであろう日本の歯科医療体系を考えると非常に貴重な体験実習で、学生の実習に臨む態度も全ての施設の指導担当者から素晴らしいと褒められました。他学部の学生も訪問歯科診療を体験しました。残念なことは歯学部では3名の学生しか選択しなかったことです。本年から開始された実習ですので、来年度以降は少しずつ選択してくれる学生が増えることを期待します。

## アドバンス選択実習トライアルが実施されます

教育委員長 井上 美津子

本学歯学部では5年生で臨床実習が行われ、選択実習終了後10か月間は6年生が臨床に出る機会がありません。しかし歯科医師国家試験にも治療手順や実際の術式など臨床に即した問題が増え、また国試合格後はすぐに臨床研修の場に飛び込まなければなりません。このような状況から、総括講義が始まった後も希望する学生には臨床に出る機会が持てるようにしたらどうかという発想のもと、アドバンス選択実習が企画されました。今年度はトライアルということ

で4名の学生に対して総合診療歯科と高齢者歯科で実施する予定です。各担当科の先生方には、ご協力をよろしくお願いするとともに、学生の皆さんの頑張りに期待します。

## 科学研究費補助金運用の一部変更について

研究活動委員長 上條 竜太郎

今年度、日本学術振興会は法改正により学術研究助成基金(以下「基金」)を新設しました。それに伴い基盤研究C、若手研究Bと挑戦的萌芽研究(いずれも平成23年度新規課題のみ)は本基金から研究費が交付されました。その結果、会計年度にとられない契約が行えるとともに、研究期間内であれば、研究の進展に合わせて研究費の前倒し又は繰越しなどが可能となりました。詳細は日本学術振興会のホームページをご覧ください。ご不明な点は、歯学部研究活動委員会、財務部研究助成課にお問い合わせ下さい。なお、上記以外の種目の新規採択課題と全ての継続課題は、基金化されておりませんのでご注意ください。(http://www.jsp.go.jp/j-grantsinaid/index.html)

## 受賞

広報委員長 井上 富雄

・高橋 那奈(歯科補綴学 大学院4年):5月20-22日に開催された(社)日本補綴歯科学会第120回記念学術大会で優秀ポスター賞(デンプライ賞)を受賞されました。演題名「MPCポリマーによる義歯床表面への *S. mutans* バイオフィルム形成抑制」



## 行事予定

広報委員長 井上 富雄

7月 2日(土):第31回昭和歯学会総会  
7月 4日(金):夏期スポーツ大会壮行会  
7月23日(金):医歯薬合同オープンキャンパス  
7月26日(金):4学部合同オープンキャンパス  
7月30-31日:第16回歯学教育者のための  
(土・日) ワークショップ  
8月 6日(土):歯学部オープンキャンパス  
8月27日(土):歯学部オープンキャンパス

## 診療統計(平成22年5月分)

医事課課長 久米 徳明

|      | 患者数    | 1日平均  | 前月1日平均 | 前年1日平均 |
|------|--------|-------|--------|--------|
| 外来患者 | 15,976 | 694.6 | 684.8  | 734.3  |
| 入院患者 | 380    | 12.3  | 11.7   | 13.7   |



## 第27回ストア・クロ・クラブ会議で講演 しました

歯科補綴学教室 馬場一美



5月26日－29日の期間、イタリアのトリノで行われた、第27回 Store Kro Club Conferenceに参加してきました。

この学会は“Society of Oral Physiology”とも呼ばれる会員制の学会で、2年に一回開催されます。設立は1959年に遡り、Ramfjord, Ash, Brill 等が初期からのメンバーです。学会名は第1回の Conference が開催されたホテルの名前に因んでつけられています。いくつかのルールが設定され、会員資格も厳しく設定されており、Club と呼ぶに相応しく和やかな雰囲気のある学会です。もちろん、発表と討議は非常に活発で口演発表の持ち時間(20分)はあっという間に過ぎてゆきます。

今回は82名のメンバー参加があり、そのうち日本人は大阪大学矢谷教授、新潟大学山田副学長を初め7名でした。私は睡眠時ブラキシズムの遺伝子多型に関する研究成果を口演発表してきました。学会終了日前夜には開催地で最も格式の高いレストランでパーティーが行われることになっており、パーティーの中で Gunnar Carlsson 先生がすべての口演演題をおもしろおかしく、時には辛辣に Review した Rhyme (詩) を朗読して、学会全体を総括します。約20年間にわたって参加していますが、毎回新鮮で新たな発見のある学会です。



## 米国臨床腫瘍学会に参加しました

総合内科 奥田健太郎

6月3日－7日に米国臨床腫瘍学会(ASCO)がシカゴのマコーミックプレイスセンターにて行われました。私もこちらに参加してまいりました。



総演題数が2,500に上り腫瘍学会としては世界最大規模の学会の一つで、身体のほぼすべての領域における腫瘍が対象となります。私は元々呼吸器内科ですので、肺癌・呼吸器悪性腫瘍のセッションやポスターを中心に学会場を回ってまいりました。

近年の癌治療では、分子標的薬の開発は重要なキーワードとなっております。肺癌領域では、EGFR チロシンキナーゼ阻害薬(EGFR-TKI)である Gefitinib,

Erlotinib がその主要な薬剤ですが、その耐性化対策(MetMAB)に関する演題の発表がありました。また既存のレジメンに血管新生阻害剤の Bevacizumab の併用で治療成績が良くなることが知られていますが、新たな併用療法に関する演題が提示されておりました。

分子標的薬の発達に伴い、テーラーメイド治療の必要性が提唱されてきております。EGFR 遺伝子変異の有無により、治療法の選択を組み込んだ臨床試験に関する発表等が提示され、また近年日本で発見された新しい標的分子 EML4-ALK や、その標的分子に対する阻害薬として注目を浴びている薬剤 Crizotinib についての発表がありました。殺細胞性抗癌剤についても、比較的副作用が少ないことから、現在維持療法として確立されている Pemetrexed の新たな使用方法についての演題などがあり、非常に知見に富んだ有意義な学会でした。ASCOでは毎日、前日の発表の一部が速報として発行され、所々に置かれております。もちろん英語版がメインですが、時に日本語や中国語のものも置いてあり、あらためて大規模な国際学会であることを認識しました。

最後になりましたが、貴重な経験をさせて頂いた総合内科の井上先生を始め、呼吸器アレルギー内科の皆さんに心より感謝申し上げます。

## 第111回米国微生物学会に参加して

口腔微生物学教室 谷口 誠

5月21日－24日にかけて米国ニューオーリンズで開催された第111回アメリカ微生物学会に参加して参りました。当教室から筆頭演



者の有本隆文先生、大学院生の安藤琢真君、私の三名が参加しました。本学会は米国を中心に世界中から約3,000もの演題が集まる大きな学会で、会場内は参加者らの活気にあふれていました。遺伝子解析等の最新の報告のみならず、国内の学会ではあまり例を見ない「飲料水や土壌の汚染」に関連する報告も多く、日本の衛生環境の高さを実感したのと同時に、今後は福島第一原発事故に関連する報告が増加するのではという懸念を抱きました。

また、ニューオーリンズは、香水のような甘い臭いに、腐敗臭等の異臭が混ざり、さらに高い湿気で、むせかえるような熱気に包まれておりました。おかげで、特産のザリガニや蛙そして鰐を見るまでもなく、食欲が沸くことはありませんでした。

ニューオーリンズでの滞在に良い思い出はありませんが、本学会では研究に役立つ数多くの知見が得られました。今後、自らがこのような場で発表できるように研究に邁進したいと思います。

## アデレード大学で選択実習を体験しました

D6 遠藤 祐人

6年選択実習として3週間アデレード大学歯科病院に行かせていただきました。病院見学と講義への参加の他に、アデレード大学の先生方と学生のご好意で、学生に混ざって討論への参加、口頭試問、患者さんの既往歴の聴取、週末の講習会や学生会の主催する講義や行事への参加など様々な経験をする事ができました。昭和大学歯学部で学んできたことが十分通用することが実感できた一方、異なる教育環境で勉強している海外の歯科学生に混じって勉強することで、歯科医師になるために自分に足りないものを見直すきっかけとなりました。

ここには書ききれない沢山の貴重な経験をする事ができましたが、自分が得た最もかけがえのないものは歯科医師を目指すたくさんの仲間達です。外来で患者さんを前にして、食事をとりながら、サッカーをしながら、時にはお酒を飲みながら沢山のことを語り合いました。彼らに負けられないように、これからも先生方のご指導のもと一生懸命勉強していきたいと思っております。今回の実習に際して大変お世話になりました

歯周病学教室の山本松男教授、歯科医学教育推進室の片岡竜太准教授に心よりお礼申し上げます。



## 香港大学で選択実習を体験しました

D6 加藤 真理

私が行った香港大学歯学部は、香港唯一の歯学部です。2週間の実習のうち、1週間目は歯周病科にて朝のミーティングに参加したり、治療、オペ



の見学を行ったりしました。朝のミーティングではその日に担当する患者の治療予定、経過について担当医に発表し、治療の注意点を確認したりします。基本的治療方針に大きな違いはありませんでしたが、再生療法のおペで使用される材料には日本で認可されていないものもあり、その治療過程・成果について教えてもらう機会もありました。2週目はPBL参加の他、クリニック見学へいかせていただきました。参加したPBLは「骨」を主題としたもので、学科に関係なく一つのテーマを扱う方法により、新たな視点からの勉強がで

きました。最終日には試験の無事通過を願う伝統行事に参加し、中華文化を垣間見る事ができました。卒後は、香港以外の外国で仕事することを視野に入れている人もいて(地理的条件や英語使用という日本とは異なる背景がありますが)国籍の垣根に縛られない考え方に触れたことは新鮮でした。学生も先生もフレンドリーでエネルギーが豊富で、色々な刺激をうけた2週間でした。担当して下さった香港大学の先生ならびに昭和大学の先生に、この場を借りてお礼申し上げたいと思います。

## 南カリフォルニア大学で選択実習を体験しました

D6 佐藤 麻梨香

私は選択実習で南カリフォルニア大学(USC)に3週間行ってきました。USCはロサンゼルス中心部に位置する長い歴史のある私立大学です。昨年、USCから2人の教授が昭和大学にいらっしや、私もその講義に参加しました。それがきっかけで、幸運にも今回彼らの元で実習させてもらえることになりました。

実習の内容としては、主に診療の見学と講義にも参加しました。中でも Orofacial pain 科は主に口腔顎顔面の疼痛を扱う科で、顎関節症はもちろん、神経痛、頭痛を訴えて来る患者さんもいらっしやいました。

日本ではまだ馴染みのない診療科ですが、私にとっても馴染みがなかったのも、そこでの診療見学は特に興味深く、歯科医の携われる範囲の可能性を感じさせるものでした。実習先として海外を選ぶことには不安と迷いがありましたが、実際この3週間の体験は全てが新鮮で刺激的なものでした。卒後のやりたいことがまだ明確でなかった私にとって、自分のモチベーションを高め、将来の視野を広げる良いきっかけにもなりました。学生という立場のこの時期に、USCでの選択実習というまたとない経験ができたことは、思い切って海外に出てみて本当に良かったと思います。



## 編集後記

歯科理工学教室 堀田 康弘

未曾有の大震災以来、日本全国が節電のために沈滞ムードとなっているように感じるのは、決して私だけではないと思います。大学でも節電カリキュラムが実施され、教員も学生も混乱の日々を送っていますが、そんな中だからこそ、教育・研究・診療の現場から今の日本の状況を盛り上げていくのが、我々の使命であると強く感じる今日この頃です。

末筆になりますが、いつもお忙しい中、原稿を執筆して頂いた皆様には心より感謝申し上げます。